

平成21年度

今治市市民が共におこすまちづくり事業
の助成を受けた団体の事業ご紹介

団体名 ふれ愛茶屋グループ

玉川町鈍川に「ふれ愛茶屋」をオープン！！地域住民、特に高齢者を対象にした生活支援や学習活動の提供を行うなどして、住民自らによる地域の活性化に取り組んでいます。



アットホームなふれ愛茶屋グループ↑

Q. ふれ愛茶屋のきっかけは？

1年ほど前、高齢者同士の交流を図るために地域の福祉施設で2カ月に1回「鈍川ふれあいサロン」を開いてきました。6回開催して、「2カ月に1回では物足りない」といった声をいただき自分たちも「もっと出来ることのあるのではないか」「もっと暮らしに密着した支援ができないか」といった反省点に立ち「ふれ愛茶屋」の構想にいたりしました。

Q. オープンまでの道のりは？

5年ほど前に閉鎖されたJA越智今治鈍川支店をリフォームしました。JA金融部が使っていたカウンターはそのままだ、テーブルは市内の中学校で使用していた学習机を再利用、椅子は、地域のお父さんたちが大木の切り株を加工、食器はグループのメンバーが持ち寄るなど何もかも手作り、買ったのは冷蔵庫くらいです(笑) たくさんの方々のご協力をいただき、去年10月無事オープンすることができました。農家の主婦ら15人がボランティアで運営しています。

Q. 目玉メニューは？

自然の恵みを盛り込んだ献立です。秋は川ガニ・冬は猪・春は山菜など、昔ながらの知恵と工夫をこらした地産地消料理を楽しんでいただけます。地元の方がランチを楽しんだり、農作業の手を休めて立ち寄ってくれたりする一方、市外からも季節料理と澄んだ空気・水を求めて大勢のお客さんが足を運んでくれています。

Q. 将来の展望は？

栗拾い・しいたけ狩りなどの体験メニューも加え、収穫したばかりの食材を使った料理も提供することで自然を丸ごと味わっていただきたいと思います。味噌・餅・漬物などをつくる伝承教室も開いているのですが、今年は地域の子どもたちを対象にした「食育」にも取り組んでまいります。「自分たちの住むちは、自分たちの手で守っていききたい」それがメンバー全員の切なる願いです。

ふれ愛茶屋ギャラリー



冬限定 名物の猪丼



手作り雑貨も人気



幸せの黄色いポストが！



ふれ愛茶屋

- 場所：今治市玉川町鈍川丙68-1 (JA越智今治鈍川支店跡地)
- 営業日時：毎週火・木・土曜日
午前10時～午後4時 (食事は午後2時まで)
- お問合せ：0898-55-3366



隣接する「ふれ愛の里」はスーパーの役割も果たしています。

●今月の特集● 第1回「社会参加」と「自立」を考える
～障がいを伴う人々の就労チャレンジの現場から～のレポート

夢セラダ Vol.46

2010.4.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非)今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com



オリジナル広報VTR完成！ NPO法人SIDS家族の会



今治市民活動センターが取り組んでいた、団体の活動目的・内容・魅力などを紹介する広報VTRが完成しました。昨年度ご応募いただいた団体のなかから選ばせていただいた「NPO法人SIDS家族の会」の広報VTRです。SIDS家族の会では今後、このビデオを広報ツールとして活用し、さまざまなシーンで上映を行うことで活動への理解・協力を呼びかけていきます。



←撮影の様
今治市民活動センター内で
取材・撮影収録を行いました。

NPO法人SIDS家族の会 連絡先
sids-ehime@dol.hi-ho.ne.jp(寺尾)

SIDSとは…乳幼児突然死症候群
S… Sudden 突然
I… Infant 乳幼児
D… Death 死亡
S… Syndrome 症候群
SIDS家族の会、1992年発足。
2003年NPO法人化。
■活動の目的■
流産・死産・SIDS・その他の病
気等でお子さんを亡くされた家
族の精神的援助、SIDS等に関
する知識の普及、子どもとその
家族の健康・福祉の増進に寄与
することを目的としています。

オリジナル広報ツール制作プロジェクト第3弾！ 団体募集開始！

今年度もVTR制作が決定！ プロモーションVTRで活動の魅力を伝えてみませんか？

募集締切：2010年5月31日(月)

要件：今治市内で活動する組織・団体
内容：今治市民活動センターのスタッフと、
映像制作会社のスタッフとで一緒に
つくります。

※制作に伴い、「ミッション確認」「広報力UP」を
テーマにした講座にご参加いただきます。
詳細はお申込団体へご案内いたします。
※制作は1団体を予定しています。
応募多数の場合は、ヒアリング等を行ったう
えで決定させていただきます。ご了承ください。
※講座のみの参加も受け付けています。

オリジナル広報ツール制作プロジェクトとは

団体の活動目的・内容・魅力などを紹介する
広報ツール(道具)を制作するものです。
これまでに人形劇やVTRを制作してきました。
VTR制作においては
インタビュー取材等を行い
テロップ、BGMをつけて編集いたします。
日ごろの活動を分かりやすくアピール！！
理解の輪を広げ、仲間を増やすツールとして
役立ててみませんか？



第1回「社会参加」と「自立」を考える ～障がいを伴う人々の就労チャレンジの現場から～ リポート

去る2月21日(日)、今治市総合福祉センター・愛らんどで、第1回「社会参加」と「自立」を考える～障がいを伴う人々の就労チャレンジの現場から～を開催いたしました。その模様をお伝えします。

■本フォーラムの目的

社会環境が激変し、「働きにくさ」「生きにくさ」を抱える人が増えています。そうしたなか、

●NPOは、●企業は、●行政は、どのような社会参加の手法を創造できるのか…。

第1回目は、障がいを伴う人々の就労現場にスポットを当てその道筋を探りました。

.. 基調講演

「『働きたい』を応援するために」
NPO法人ユニバーサルクリエイティブ
理事 河野聡子さん



アメリカカルフォルニア州バークレー市にある「障害者自立支援センター」で出会った人々は、障がい者の視点から道路の段差解消に

取り組むなど「自分たちが社会を変えていく」という自信に満ちあふれていました。そうした現状は、障がいによる差別を禁止した「障害を持つアメリカ人法」に支えられています。この法は、雇用時において障がいを理由とする差別的な扱いも禁じていて罰則規定もあります。日本にはこのような法律ありません。

愛媛県内で実施した調査で、障がい者を雇用する企業には、設備の整備等に助成金が支給されることや、税制面での優遇措置があることがあまり知られていないことが分かりました。福祉サイドからは、障がい者雇用について「企業に送り出したものの、本人が傷つくことが多い…」という意見も聞かれました。

ユニバーサルクリエイティブでは「えんむすびプロジェクト」と称して、作業所で作成した作品を企業に紹介したり、スーパーでの展示などを進めています。「障がい者が作ったもの」ではなく、市場に「欲しい」と思わせるだけの商品力を付けていかなければならないと強く感じています。

障がい者にとって、就労の有無による経済的状況は大きく変わりません。しかし働いている人は生き生きした顔をしています。「役割」「必要とされること」で人は成長するのだと思います。

.. 事例報告① 対行政、対民間の協働ネットワークで障がい者就労の可能性を探る！

NPO法人家族支援フォーラム 夢ポケット
代表理事 米田順哉さん



夢ポケットは、飲食業「ゆり茶屋夢家(愛媛県庁第1別館地下1階)」、自治体や企業等を対象にした清掃業「ハッピークリーンYUMEYA」などの仕事を通して給料を得る喜びや、働くことの感動を体験できる「職場」を目指しています。

ランチタイムの混雑時、イベント後の大量ゴミが放置された公園清掃など不安な場面もありましたが、メンバーの力で乗り越えていくことができました。

ランチャイムの混雑時、イベント後の大量ゴミが放置された公園清掃など不安な場面もありましたが、メンバーの力で乗り越えていくことができました。

素人芸を仕事に持ち込んではダメで、市場に出せる技術がなければ、外部から取り入れることも検討しなければなりません。その場合、資金調達、行政、企業、NPOなどとの協力が不可欠となり、支援者の腕の見せ所となります。協働への理解は進んでいます。

障がい者が働ける場所をつくりたい場合は、その意思を情報発信し続けることが何よりも大切です。根気強く継続することで、思いに応えてくれる現状が生まれてきます。

ワークライフバランス、「生活と仕事と楽しみ」の3本柱はとても大事で、遊び方、余暇の過ごし方にも気を配ることも必要です。

今後は、障がい者の恋愛・結婚・出産等の支援も積極的に進めていきたいと思っています。そうしたことに取り組まなければ、この仕事をしている意味がないと思っています。



.. 事例報告② 在宅勤務など、これからの「障がい者雇用」のあり方を探る！

まるく株式会社
代表取締役 北野賢三さん



まるくは、障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業を行なっていて、障がい者と雇用契約を結んで働く機会を提供しています。

まるくの従業員について、「軽度の障がい者が携わっているんでしょ？」と問われますが、決してそんなことはなく、重度障がい者も在宅勤務で働いています。

ここでは、働く人たちは利用者ではなく従業員であり、工賃ではなく給料を支払っています。努力と成果で昇給も可能です。

テレワークにも取り組んでいて「第9回テレワーク推進賞」の奨励賞をいただきました。手足を自由に使えない方たちは、舌やヘッドポインターなどを使ってパソコンを操作しています。出来ないことを支えるだけでなく、出来ることを伸ばしていくことが重要です。

清掃業務においては、商店街や公共施設、コンビニ等と契約していて、顧客が求める仕上がり提供できるよう従業員を見守りながらサポートしています。

「支援者の質」で「障がい者の将来」が決まるようなことがあってはならないと思います。社会全体、一人ひとりが関心を持つことで障がい者を取り巻く環境は改善されていきます。

※テレワークとは…パソコンを使ったデータ入力など情報通信技術(IT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。



約50名の方に
ご参加いただきました
たくさんの反響をいただき
誠にありがとうございました

.. パネルディスカッション



パネルディスカッションでは、「ひと月どのくらいの収入になるのですか?」「業務が身につくまでの訓練期間はありますか?」「今治から働きに行くことは可能ですか?」といった具体的な質問が数多く飛び出し、パネリストのみなさんは一つひとつ丁寧に答えていました。



.. フォーラムを終えて…

「仕事をまかせることは、支援者側の覚悟と勇気が必要。また、バックアップ体制は常に整えています」という言葉が強く印象に残りました。

(今治市民活動センタースタッフ)

■参加者の声

夢・理想・現実・課題解決、それぞれの内容が実にバランスよく盛り込まれていて、とても理解が深まった。実りの多いフォーラムだった。
(40代女性)

パネリストの方々の深い愛情や使命感がヒシヒシと伝わってきた。話がとても具体的で分かりやすく、自分にできることを改めて考えさせられた。
(30代女性)